



2021 MotoE World Cup

Hikari Okubo 大久保光

2021.6.6 カタルニア 予選 11 番手 決勝 9 位



スペインのカタルニアサーキットで FIM Enel MotoE World Cup (MotoE) が開催されました。大久保にとって、初挑戦となるコースです。モータースポーツ人気に高いスペインは、国内選手権が盛んに行われ、そこで、切磋琢磨したライダーたちが、ロードレース世界選手権 (WGP) にステップアップして来ます。MotoE でも、その現象は顕著で、このコースを走り慣れたライダーが多くいました。大久保にとっては未知数の戦いでも、ライバルたちにとってはホームコースでもあり、正直、苦戦が予想されていました。事前に 1 日だけの練習走行があり、大久保は精力的に走り込み 80 ラップを消化してレースウィークを迎えます。ですが、FP2 での転倒があり、貴重なセットアップの時間を失います。これが響き予選 11 番手となり 4 列目のスタートとなりました。

決勝では、抜群のスタートで 6 番手まで浮上しますが、パワーダウンが起きてしまいストレートスピードが伸びずにポジションダウン。まだ、始まったばかりの MotoE では、パワーが安定して出続けることが、難しい局面もあり、今大会のポールポジションを獲得したエリック・グラナダは、その症状が顕著で、リタイヤとなっています。大久保は、なんとか、パワーを維持しながら、最後まで走り切り 9 位となりました。

結果は満足できるものではありませんが、決勝中のファーステストラップタイムでは、4番手タイムを記録しており、そのポテンシャルがトップに迫っていることを証明しています。次戦への期待が高まる内容となりました。



大久保「今回のレースで勝ったのは、自分と同じルーキーだったので、とても悔しいです。ですが、同時に、自分にもチャンスがあるということだと思います。MotoEマシンで3戦戦いましたが、セッティングがシビアだと感じています。マシン重量が250kg以上なので、イニシャルを4分の1変えただけで、別物のマシンになってしまいます。バッテリーの容量の問題で、なかなか周回数を稼げないという厳しい戦いになっています。当初は、ライダーひとり体制で、チームが自分に集中してくれることを有難いと思っていましたが、セッティングデータを蓄積するためにもチームメイトがいてくれたら、セッティングのスピードが確実に上がるだろうと考えるようになりました。ですが、いないものは仕方がないので、レースウィークの短い走行機会を有効に使い最善のセットアップを導き出せるようにしなければならぬと感じています。それが出来れば、優勝も現実のものになります。次戦のアッセンは、しっかりと力を示し、いい報告が出来るように最善を尽くします」

※次戦は6月27日にアッセンで開催されます。